

令和 7 年度

運営に関する計画

(中間評価)

大阪市立聖和小学校

## 1 学校運営の中期目標

- 一昨年度の不登校在籍比率は 5.74、昨年度は 4.16 となっており、ますます個に応じた教育環境の充実が求められる。児童の実態把握に努めながら、自己肯定感が高まるような取組を進め、児童が安心して心豊かに成長することができるようとする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、昨年度は、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は 34.7% であった。これは大阪市の平均を 0.3 ポイント下回っており、全授業の中で、少しの時間でも積極的に話し合う活動を行う必要がある。
- 大阪市教育振興基本計画の基本的な方向4にある「誰一人取り残さない学力の向上」に向け、学習者用端末を活用し、基礎的基本的な知識などの定着を図る必要がある。

**中期目標** 数値目標は学校独自で設定

**【安心・安全な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を 80% 以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍率を前年度より 1 ポイント減少させる。
- 年度末の校内調査において、「大規模な災害が発生したときに主体的に行動できる」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40% 以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において児童の 8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。(学校行事など ICT 活用が適さない日数を除く)
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

**【安心・安全な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、「大規模な災害が発生したときに主体的に行動できる」と回答する児童の割合を80%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(学校行事などICT活用が適さない日数を除く)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立聖和小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安心・安全な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を80%以上にする。</li> <li>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍率を前年度より減少させる。</li> <li>○ 年度末の校内調査において、「大規模な災害が発生したときに主体的に行動できる」と回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①</b></p> <p>児童が「いじめはどんな理由であってもいけない」という認識を高めるために、道徳授業だけでなく、教育活動全体でいじめの防止に向けた指導に取り組む。</p>	B A 4 B 4 C 0
<p><b>指標</b></p> <p>児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容②</b></p> <p>不登校児童について、いじめ虐待等生活指導委員会で共有し、不登校の背景を考えたり支援について考える。また、どの児童にとっても安心・安全な学校づくりに努める。</p>	B A 1 B 7 C 0
<p><b>指標</b></p> <p>月に 1 回のいじめ虐待等生活指導委員会で、不登校児童について情報を共有し、支援について考える。</p>	
<p><b>取組内容③</b></p> <p>大きな災害や二次災害に備えた防災計画を立て、防災頭巾やトランシーバーなどを効果的に活用した実践的な防災訓練を実施する。</p>	A A 6 B 2 C 0
<p><b>指標</b></p> <p>児童アンケートで「大きな地震がおこった時に、自分の命と安全を守るための行動ができますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① (達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合が目標に達成している。(R 7.9 月現在約 89%)</li> <li>・道徳の授業やいじめについて考える日など、教育活動全体を通して、いじめ防止に取り組むことができている。また、いじめにつながる言動を発見した際には、管理職と連携し、学年全体で情報を共有し、早急に対応することができた。</li> </ul>
取組内容②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の計画通り、月に1回のいじめ虐待等生活指導委員会で、不登校児童について情報を共有し、支援について考えることができた。また、不登校児童のケース会議を開き、各関係機関と情報共有を図った。一方で、不登校児童が減少するには至っていない。</li> <li>・SSWによるヤングケアラーについての研修を実施した。</li> </ul>
取組内容③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで、「大きな地震がおこった時に、自分の命と安全を守るために行動ができますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合が目標に達成している。(R 7.9 月現在約 96.3%)</li> <li>・計画的に避難訓練を実施することができた。避難訓練を毎年計画的に行うことで児童は、地震が起こった時にとるべき行動を自動的に行えるようになってきている。一方で、避難の際に防災頭巾を活用できていない児童もいた。</li> </ul>

後期への改善点	
取組内容①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについて考える日の取り組みにおいて、内容や取り組む時数等の共通理解を図り、取り組み内容に学年差がないようとする。</li> <li>・アンケートにおいて、否定的な回答をした児童が 4.7%いた。今後も児童理解に取り組みながら、児童の実態に応じたいじめ防止の指導に取り組んでいく。</li> </ul>
取組内容②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、月に1回のいじめ虐待等生活指導委員会を開き、不登校児童の多様な背景を理解しながら支援を考える。</li> <li>・教職員が連携しながら、不登校児童の居場所をつくる。</li> </ul>
取組内容③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も計画的に避難訓練を実施し、防災に関する意識を高めていく。</li> </ul>

評価基準 A：目標を上回って達成した

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40% 以上にする。</li> <li>○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①</p> <p>子どもの学びを深める授業を行うために、話し合いを中心とした学習を充実させるようとする。</p>	A
<p>指標</p> <p>児童アンケートで「友達の発言を聞いて、自分の考えについてもっと考えたり、考え直したりすることができますか」において、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40% 以上にする。且つ、肯定的に回答する児童を 80% 以上にする。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>体育委員を中心に基礎運動能力の（走る、跳ぶ、投げる、打つ、押す、蹴るなど）の向上に繋がる活動を学校全体で年 3 回実施する。</p>	C
<p>指標</p> <p>児童アンケートで「運動（体を動かす遊び）やスポーツをすることは好きですか」において、「そう思う」と回答する児童の割合を 70% 以上にする。</p>	
<p>取組内容③</p> <p>「給食だより」「保健だより」で朝食を食べることの必要性を各家庭に知らせる。また、年 2 回生活実態調査を実施する。</p>	A
<p>指標</p> <p>児童アンケートで「毎日朝ごはんを食べていますか」において、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① (達成状況)	児童アンケートでは、「友達の発言を聞いて、自分の考えについてもっと考えたり、考え直したりすることができますか」において、指標を上回っている。(R 7.9月現在約 41.5%) しかし、各クラスでの取り組みがどのように行われているのかが周知されておらず、学校としての取り組みになっているとはいえない。
取組内容② (達成状況)	児童アンケートの結果から肯定的な意見は多くみられるものの、最も肯定的な意見においては、指標を 5. 6 ポイント下回っている。(R 7.9月現在約 64.6%) 各学年、学級での体育の時間に基礎運動能力向上のための取組を行っていたり、運動委員会を中心とした活動を行ったりしているが、まだ十分に基礎体力向上に繋がる取組になっているとはいえない。
取組内容③ (達成状況)	個人懇談会で直接アンケートと手紙を渡すことで、家庭生活についての話ができる良い機会になっている。また、手紙で朝食の必要性を伝えている。その結果から児童アンケートにおいても指標を 10.1 ポイント上回ることができた。(R 7.9月現在約 95.1%) しかし、児童が手紙を読んでいるか分からなかったり、各学級でも朝食の必要性を学んだりすることはできていない。

後期への改善点	
取組内容① (達成状況)	学年・学級ごとに取組内容に違いがあると考えられ、それぞれ達成状況にも差があると考えられる。そのため、学校全体で学年・学級ごとの取り組みを共有できる仕組みを構築し、全体に広げていくことで話し合いを中心とした学習活動の充実を図る必要があると考える。
取組内容② (達成状況)	今後は運動委員会や学年間の取組を共有し合うなどをして新たな活動に取り組むことで、最も肯定的な意見を増やしていく必要がある。
取組内容③ (達成状況)	栄養指導や出前授業などで朝食に関する授業を行う必要がある。その後、理解度を図るアンケートを取るなどして、さらに朝食への関心を深められるようにする。

評価基準 A：目標を上回って達成した

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b>	
○授業日において児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。（学校行事など ICT 活用が適さない日数を除く）	
○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①</b> 心の天気やデジタルドリル、Teams などの活用頻度を高めるために、学年の実態に応じた ICT 活用に取り組む。	
<b>指標</b> 学習者用端末日別活用率の使用頻度に関する調査結果で、児童の 50% 以上（月別平均）が学習者用端末を活用している。	B
<b>取組内容②</b> 行事や会議の精選し、デジタル化をはかることで、教職員 1 人 1 人に合った働き方に取組む。	
<b>指標</b> 職員打ち合わせの 85% をレコーディングをしながら Teams で行う。また、週に 1 回会議のないゆとりの日を入れる。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>取組内容①</b> (達成状況) ・心の天気の入力は定着してきている。また、スタディサプリは家庭学習でも活用ができる。連絡帳を Teams で児童に配信したり、学習時間や委員会活動などで児童の発達段階に応じて Canva、Google Classroom、Forms などを活用したりして、学習者用端末の使用頻度は高まりつつある。
<b>取組内容②</b> ・職員会議や職員打ち合わせなど、Teams を活用することで毎朝の職員連絡会の削減になり、教職員の働き方にあった環境が整備されるとともに、教職員の労働時間短縮にも貢献している。また、週に 1 回、会議のないゆとりの日を入れている。

後期への改善点
<b>取組内容①</b> ・児童のデジタルドリルの活用頻度を上げるために、更なる学習者用端末の活用の幅を広げていく。（R 7.9 月現在約 62%）
<b>取組内容②</b> ・ゆとりの日の周知を進め、職員が意識して効率よく職務を遂行する。

